

高校生・中学生向け教育をマルチデバイスで実現



N-Academy

映像授業



映像授業

導入ガイド

初めてでも安心



- ▶保護者や子どもたちから見た映像授業やICT活用に関する疑問
- ▶映像授業を利用したときの教育効果や他の教室との差別化についての疑問
- ▶ICTを活用すると生徒・保護者にどのようなプラスが提供できるか
- ▶映像授業やICTを導入する時のポイントと教室運営や経営に与える影響
- ▶StudyNavi
- ▶StudyPad

材を見る
再生時間 | 17分

導入ガイド

はじめに

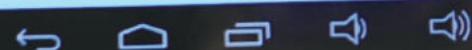
学習塾での映像授業を中心に、ここ数年急速に学習現場への
教育 ICT 導入や検討が増えております。
当社でもご相談を受けたり実際に導入のお手伝いをさせていただいている。

その際によくいただく質問や教育現場がもつ疑問に関しての
私たちなりの回答をまとめさせていただきました。

映像授業の導入時や再検討の際にご参考としていただければ幸いです。

株式会社デジタル・ナレッジ

映像授業



目次

- 004 1 保護者は子どもたちから見た
映像授業やICT活用に関する疑問**
 - 006 2 映像授業を利用したときの教育効果や
他の教室との差別化についての疑問**
 - 008 3 ICTを活用すると生徒・保護者に
どのようなプラスが提供できるか？**
 - 010 4 映像授業やICTを導入する時の
ポイントと教室運営や経営に与える影響**
- 012 **StudyNavi**
- 014 **StudyPad**
- 015 **デジタル・ナレッジについて**

映像授業やICT活用に関する疑問 保護者や子どもたちから見た 映像授業やICT活用に関する疑問

今や、ICTは集客面でも大きく影響を与えています。

Q 映像授業は
保護者たちの
塾選びに
どう関係するのか？

くあるのが、「映像授業の導入によって保護者から手抜きをしていると疑われるのではないか？」という質問です。すでに、「デジタルネイティブ（世代）」という言葉があるように、いまの子どもたちは当然のこと、保護者にもインターネットやパソコンなどICT利用は身近になっています。

その中で、保護者や子どもたちは、映像授業や教育ICTをどのように捉えているのでしょうか？

込を決めています。（図1）

保護者は、スマートフォンの普及により、インターネットで情報収集して教育サービスの選択をすることに抵抗がなくなっています。

簡単なモデルを挙げますと、保護者は教育サービスを知った後に、『インターネットで評判や口コミを調べて、無料体験や説明会を通して申込を決める』というスタイルに変化しているということです。

学習塾として気になるのは、「映像授業の導入が生徒募集に与える影響」ではないでしょうか？ 保護者がICTを活用した教育に否定的で『あの塾は映像授業だからダメ』という評価を気にするなら、映像授業の導入はしない方が良いという結論になります。

しかし、スタディサプリやTuteTなどのTVコマーシャルなどの影響か、Google調査による教育業界の最新トレンドでも、『オンライン学習サービス』という検索キーワードは、『学習塾』に匹敵する検索数になります。（図2）

また、そういう背景から学習塾のマッチングサイトでも、絞り込みのキーワードに『映像授業』が設けられております。

これは、授業のカテゴリーに『映像授業』というサービスが選択肢の一つに加わったと考えられます。

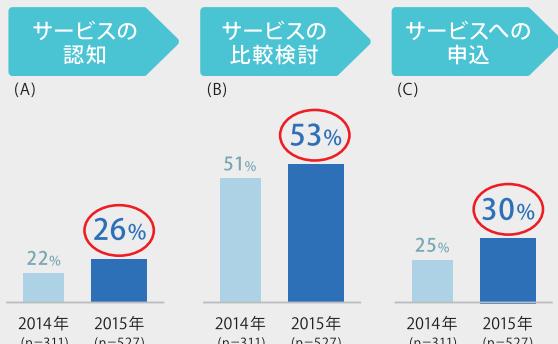
その背景には、保護者が「映像授業でも品質の高い授業がいつも受けられる」という肯定

はインターネットの情報をだけで申

はインターネットでの情報をもと比較・検討を行い、2人に1人はインターネットの情報をもと比較・検討を行い、3人に1人はインターネットの情報をもと比較・検討を行い、3人に1人は

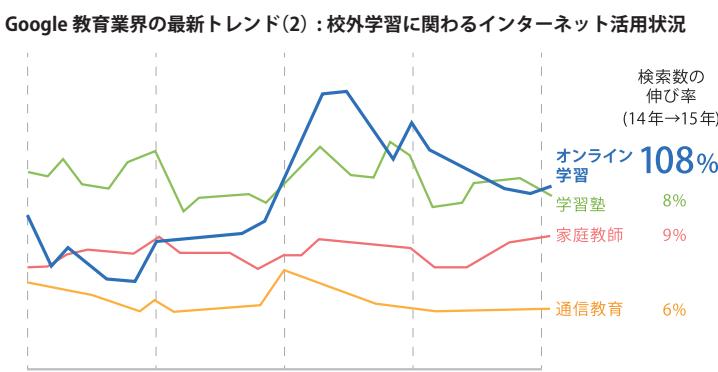
はインターネットの情報をもと比較・検討を行い、3人に1人は

図1:どのように教育サービスを検討しているか？



Google調査（2015年12月）による、母親からの実際のコメント

図2:子どもの主な学習形態別 検索数推移



<https://www.ja.advertisercommunity.com/t5/旧ブログ記事/教育業界の最新トレンド-2-校外学習に関するインターネット活用状況/ba-p/12609>

Q 子どもたちは
映像授業を
どのように考へてい
るのか？

子どもたちはオンライン学習を通して、映像授業に対するどのように考えを持っているのでしょうか？

まずは、利用率です。2015年のGoogle校外学習サービスに関するアンケート調査だと、現在利用中（利

的な意見があるからだと考えられま
す。

Question

Q

校外学習サービスを聞くと高校生の「オンラインでの動画授業の視聴（PC、スマートフォン、タブレットを使用）」が27%に達しています。高校生には、オンライン学習が校外学習の選択肢の一つとして考えていることがわかります。（図3）

では、中学生はどうでしょうか？当社は、「ICTドリームスクール学習会」という名称で、2016年2月に公立中学校で映像授業を活用した放課後学習会を実施いたしました。実施後のアンケート結果をみると生徒・保護者とも好意的な回答が多数を占めています。（図4）

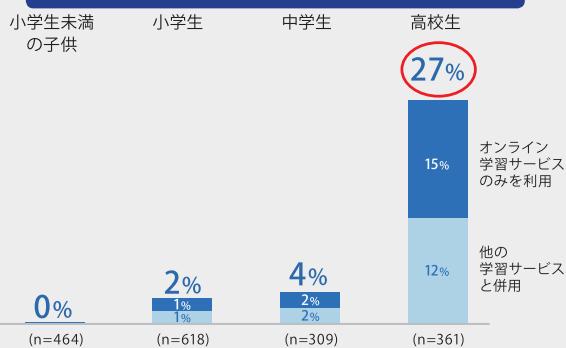
この結果から子どもたちだけでなく、保護者にも「映像授業」という学習に対し好意的な意見が増加していくと考えられます。

映像授業があれば学習塾や先生は不要となるのでしょうか？

ICTドリームスクール学習会後の保護者向けのアンケートでも、「家庭向け利用サービスがあれば利用するか？」という問い合わせに対しても『はい』の返答は約半分。残りは、『いいえ』を選択。

映像授業があれば学習塾や先生が不要になるのか？

図3:オンライン学習サービスの利用率



- ・高校生の4人に1人がオンライン学習サービスを利用。中でも成績上位層や習い事にお金をかけていない層で利用率が高い。
- ・「オンライン学習」検索数は急上昇。「学習塾」に関する検索数を上回る

未成年のスマートフォン所有率



デジタルアーツ株式会社
第10回未成年者と保護者のスマートフォンやネットの利活用における意識調査

なぜ家庭で受けることに対する多くの方々が、「いいえ」を選択するのか？」と疑問が湧きます。

頂いたアンケートをみると「学校でやらせて欲しい」「学習内容に関して子どもから質問をされると困るのでも聞かれると困る」といったコメントが多く寄せられています。

つまり、保護者は「映像授業だけで教育が完結する」ことを望んでいません。

は成り立つと考えています。

また家庭では、子どもたちに質問をされても、「回答やアドバイスは無理」と保護者は考えているようです。

従って、映像授業が普及しても「先生や塾は不要」という結論にはならないと予想します。

「質問への回答やアドバイスまでセット」になつて始めて『映像授業』で教育が完結することを望んでいません。

Q.映像授業を利用した放課後学習会に参加したいですか？

Q.(学習塾へ通っている方)あなたが通っている学習塾で今回のような映像を使った学習会があったら利用しますか？

Q.今後、映像授業を利用した補修などがあると良いと思いますか？



中学2年生を対象に葛城市立新庄中学校にて、希望者を対象に学年末試験対策の放課後授業を実施。問題を解き、間違えたところを映像で確認していくというスタイルです。参加者の多くは、映像授業を利用した補習に対して好意的、終了後のアンケートでも参加者の7割以上から、また参加したいという回答をいただきました。

「ICTドリームスクール学習会」 2016年2月3日～2月12日葛城市新庄中学校で実施 アンケート調査結果

映像授業を利用したときの教育効果や他の教室との差別化についての疑問

映

像授業で教育効果があるのか？また、映像授業を利用すると他の教室との差別化ができないのでは？といった質問もよく受けます。

映像授業を利用しても教育の質を維持し、「他の教室と差別化する」にはどのような点にポイントを置くと良いのでしょうか？

Q 映像授業で「教育効果が上がらない」を防ぐポイントは？

「映像授業だと生徒が寝てしまう」という話をお聞きします。その解決方法として「生徒が集中して聞いてくれる面白い授業動画がないか？」という要望があります。

もちろん教材が『おもしろい』や『わかりやすい』ことは重要ですが、授業が退屈になる大きな要因として見過ごされるのが、「教材の難易度や説明の抽象度」。「理解できない話を聞きつづける」、「わかりきった話を繰り返し聞く」ことも、退屈になり眠気を誘う大きな原因です。ICTなら、テストの採点・フィードバックを即時に行えます。

従つて、組み立て次第では個別指導以上に生徒に合わせた授業を展開していくことが可能になります。

例えば、授業動画を閲覧する前に事前確認テストを行い、先に授業に必要な知識を確認することで、レベルが合っていない授業を受けることを防ぐことができます。

学習状況を確認後、生徒ごと一人ひとりに学習状況に応じた適切なフィードバックをした授業設計を行います。そうすることによって、初めて『集合式の授業を超える結果』を生み出すことができます。

Q 同じ映像授業を使うと他の塾と変わらないと思われるのではないか？

既存の映像授業サービスも映像教材としてさまざまなものが各社から提供されています。

「提供された映像教材をそのまま利用する」、それでは将来的に他の教室との差別化が困難になります。それに、映像教材を販売しているだけの存在になってしまいます。

他にも、直接ベンダーと契約して受講できるサービスもあります。保護者の視点からは「映像を見るだけなら自宅で十分では？」という疑問も出かねません。

映像授業を導入する際には、映像授業に関する情報を集めることができます。

「どの映像教材が良いか？」「どの映像授業を採用するか？」という視点で選択・導入をするのではなく、「自校の特徴を活かすには、どの役割をICTに負わせるのか？」「どのように映像教材を活用するか？」「ICTを利用するのに最適なシステムは？」という順序で考えて行くことが大切になります。

これが他の教室との差別化のポイントにもなります。

Q せっかく授業の上手な先生がいるのに映像授業を導入する必要があるのか？

映像授業というと直接を受けられることが出来ない有名な先生の講義が受けられることが最大のメリットと思われる方がいます。

しかし、業界で有名な先生の名前を生徒や保護者はどれくらい知っているでしょうか。実際のところ、ほとんど知られていません。

生徒にとっての映像授業の最大のメリットは、「有名な先生の授業が受けられる」ことではなく、「わかりやすい授業を、自分にあつたペースとスケジュールで受講できる」ことです。

有名でなくとも講義に自信があるなら、ぜひ授業動画を作つて活用するという方法を検討することをオススメします。

前に通っていた塾と同じ映像だ！



ただ映像授業を導入しても、効果がありません。各校にあわせた映像授業を導入・選定することが必要となります。

Question

スメします。もちろん撮影にはある程度のノウハウも必要になります。しかし、今は撮影機材などが高性能＆低価格化になっていて映像授業を制作することが難しくありません。

ですが、「配信するのに必要な仕組みは?」や「配信サーバ、学習管理システム等、大手予備校のように多額な費用負担はできない」という悩みは、当社が提供するStudyPadサービスなど学習塾向けの映像授業用クラウドサービスなどをご利用いただくと月々数万円で可能になります。

Q オリジナル映像を用意しなければ他の教室と差別化ができるのか?

そもそも子どもたちや保護者が学習塾に求めているのは、「良い授業」、「わかりやすい授業」なのでしょうか? 塾に通い始める動機の多くは、「受験」や『学校の補習』のです。

つまり、学習塾に求められることは「良い授業」「わかりやすい授業」ではありません。そこで、視点を変えると「授業で差別化」するのではなく、学習すべき内容であったり、個々の生徒の学力をあげるためのアドバイスなど「授業」以外のことと差別化していくという方法も考えられます。

ですが、「配信するのに必要な仕組みは?」や「配信サーバ、学習管理システム等、大手予備校のように多額な費用負担はできない」という悩みは、当社が提供するStudyPadサービスなど学習塾向けの映像授業用クラウドサービスなどをご利用いただくと月々数万円で可能になります。



既製の授業動画を利用して生徒に最適な映像授業を受けさせるには?

——自分より説明が上手な授業動画。わざわざ対抗してオリジナル映像を用意する必要があるのでしょうか?

「良い授業」、「わかりやすい授業」を生徒に見せればそれだけで成績が上がるのか? 当然の話ですが、生徒に適切なレベルの授業を受けてこそ学力の伸びは最大化します。



また、生徒が目指す進路によっても必要な知識や学力が異なります。そこで、他教室と差別化するためにはオリジナルの動画を用意するのではなく、「すでに存在する授業動画を利用して、個々の生徒に合わせたオリジナルのカリキュラムを組み立てて提供していく」ことに注力していくのも一つの差別化になります。

——自分より説明が上手な授業動画を利用し、個々の生徒に合わせたオリジナルのカリキュラムを組み立てて提供していくことで、個々の生徒が目指す進路によつてはなく、「すでに存在する授業動画を利用し、個々の生徒に合わせたオリジナルのカリキュラムを組み立てて提供していく」ことに注力していくのも一つの差別化になります。

Column

人工知能が生徒のフォローをする時代に?

映像授業の導人には、生徒へのフォローが最大のポイントになります。そこで期待できるのが【人工知能(AI)】です。

インターネットの普及によりビックデータへのアクセスが可能になりました。また、ハードウェアの進化による処理能力の増大、機械学習、ディープラーニングといった技術により、AIのできることも大幅に広がっています。

アメリカではすでに、教育分野に対しても、人工知能を使つたTA(ティーチングアシスタント)を導入し、学生への対応をはじめているところもあります。

ジョージア工科大学では、300名の学生に対するTA、9人の1人として「Jill Watson」名でAIが担当。Watsonが質間に答えたり、締め切りを確認したり会話のきっかけとなる質問を投稿したのですが、約一ヶ月間誰にも気づかれずに対応を行つたようです。それほど遠くない未来、学習塾にもAIが利用されることでしょう。

ICTを活用すると生徒・保護者にどのようなプラスが提供できるか？

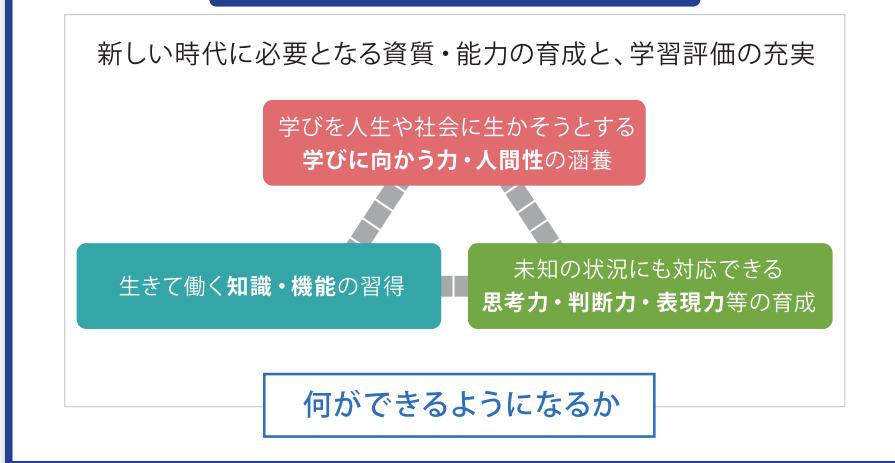
ICTをどのように活用していくかを検討するとき

に必要なのが社会や市場の変化の見通しになります。加えて、「ICTで何ができるのか?」、「ICTが得意なことは何か」といった知識になります。

ここでは、この2つのテーマについてまとめてみました。現在の教育や指導の流れの中でどのようにICTを活用していくかを検討する際の参考にしていただければと思います。

歴価値の相対的低下にともない、少しずつ「能力を身につけること」という要望が強まっている傾向を感じます。

図5: 学習指導要領改定の方向性(案)



Q 社会はどのように変化しているのか？

グローバル化する社会や不確実性の時代から、社会が求める人材が「早く

『正確に』できる『知識』をもった『協調性』のある人』から、「創造力」、『企画力・立案力』、『想像力・思考力』、『グローバルな視野や国際コミュニケーション能力』、『ストレスコントロール力』のある人」に変化してきています。

こういった背景から、学習指導要領改訂では、その中核として「思考力・判断力・表現力」等の育成を改正学校教育法第30条に明記した上で打ち出しています。入試なども「思考力・判断力・表現力」を問うものに変化するとともに各校特色を打ち出したものに変化しています。2020年の大学入試改革では、更に加速すると考えられます。(図5)

- ⑦進路情報の提供とアドバイス
- ⑧保護者に対する子どもの学力情報の提供
- ⑨保護者に対する学習に関する相談などがあげられます。

時代の変化によって保護者が望む教育も多様化するため「⑥公教育学習範囲外の教育」については、保護者が求める比重が高くなることが予想できます。併せて「①子どもに学習内容を理解させる」も同様な現象が起きると予想されます。他の要素についても競争が激しい学習塾業界においてはより高いものが求められることになると考えられます。

普通にスマートフォンを利用していける保護者。連絡手段としてもICTを活用することが有効です。従来の連絡手段と比較して、格段に即時性と方

Q ICT活用すると保護者とのコミュニケーションは変化するのか？

――「単に映像授業を生徒が勝手に受けて帰つて行くだけ」というスタイルになると自習室と変わりません。

普通にスマートフォンを利用してい

「変わらないもの」としてまず挙げられるのが、保護者が教育に対して期待する想いです。保護者が子どもを学習塾に通わせる理由としては「子どもにより良い将来を」という気持ちが強いからです。

「良い人生を送れる進路へ進むこと」や「社会で通用するいろいろな能力を身につけること」です。しかし、変化しつつあるのがその比重です。社会の不透明化、学

保護者が学習塾に求めている主な機能を分解すると以下に分類できます。

- ①子どもに学習内容を理解させる
- ②子どもの学習意欲を向上させる
- ③子どもに学習習慣をつける
- ④子どもに学習方法をアドバイス
- ⑤子どもに学習環境を提供する
- ⑥公教育学習範囲外の教育

生徒の帰宅前に、その日の学習状況を保護者に伝えることが可能です。また保護者からのフィードバックを取得するコストも大幅に低減します。

——「複数の生徒に伝達すること」は学習内容だけではありません。例えば、入塾時の説明、夏期講習などのお知らせ、進路に関する情報等、たくさんの内容があります。

伝えたい内容を映像化し必要なときに生徒が閲覧する、といった活用方法もあります。ICTなら、映像を見せるだけでは無く、見せた結果のフィードバックも可能です。

他にも、受験できる複数の模試を紹介したり、どの模試を受けるかをアンケート機能などで申込みをその場で受け付ける、といった活用もできます。

——学力向上のためには、ステップを踏んだ学習が重要です。授業を理解するのに必要な能力があるかをテストで確認した後に、映像授業を受講するといったスタイルでの講座設計も可能です。わからない授業を聞かされることによる学習意欲の減退も防げます。

Q ICTの即時性を活かす方法とは？

——「複数の生徒に伝達すること」は学習内容だけではありません。例えば、入塾時の説明、夏期講習などのお知らせ、進路に関する情報等、たくさんの内容があります。

伝えたい内容を映像化し必要なときに生徒が閲覧する、といった活用方法もあります。ICTなら、映像を見せるだけでは無く、見せた結果のフィードバックも可能です。

他にも、受験できる複数の模試を紹介したり、どの模試を受けるかをアンケート機能などで申込みをその場で受け付ける、といった活用もできます。

——「複数の生徒に伝達すること」は学習内容だけではありません。例えば、入塾時の説明、夏期講習などのお知らせ、進路に関する情報等、たくさんの内容があります。

伝えたい内容を映像化し必要なときに生徒が閲覧する、といった活用方法もあります。ICTなら、映像を見せるだけでは無く、見せた結果のフィードバックも可能です。

他にも、受験できる複数の模試を紹介したり、どの模試を受けるかをアンケート機能などで申込みをその場で受け付ける、といった活用もできます。

例えば、保護者や生徒に連絡した場合も「読んでくれたか？」がわかりますし、保護者や生徒からアンケートや講習会の申込みもICTを活用すると同時に集計が出来ます。

Q ICTの均一性を活かす方法とは？

さらに、繰り返し確認テストを行い、学習した内容の定着を計る。このようにお持ちの教務力を活かした授業設計をしていくことも映像授業を成功させることになります。

また、学習履歴の分析を行い、授業改善につなげることも重要です。

Q ICTを活かす自動処理能力とは？

——ペーパーでのテスト。マークシートを利用するにしても、用紙を回収して採点、結果を生徒に戻す、というルーチンが発生します。

ですが、ICTを利用したテストの場合、即時に採点が可能です。ですので、生徒が受験後、即時に結果を閲覧することができます。

——「高校に進学して、部活で帰宅が遅く、平日は教室が空いている時間に通えない。教室に来るのは土曜日の夜だけ。だけど、もつと勉強はしないといけないと思っている。」映像授業なら、この様な生徒さんに向けて学習手段を提供することができます。

例えば、平日は自宅で映像授業で学習。土曜日の通塾時にカウンセリングなどを中心に。映像授業なら24時間対応できるのでこのようなサービス展開も可能です。

Q ICTの「いつでも」を活かすことはできないか？

単なテストを受けてもらい、結果に合わせて何か適切な講座や学習方法を勧めるなどといった活用方法も出来ます。授業展開が可能になります。

いつたICTを活用すると当たり前にできてしましますので、指導方法がわかついてもなかなかできなかつた授業展開が可能になります。



ICTを利用すれば、自動でテストを即時採点します。採点作業が軽減されるので、テスト後すぐに復習もできます。

Q 英語4技能級を活用すると？

——たとえば、英語のリスニング能力。英語4技能ということで入試などで重要視されつつあります。ですが、リスニングの練習というと生徒を集めて一斉に行うか、生徒に自宅で学習してもらうか、といった学習方法しかありませんでした。

「生徒ごとの能力を見ながら、能力にあわせた演習を行う」といった他の教科なら当たり前のことがリスニングなどになると突然困難になります。こう

ICTを利用すれば、保護者も生徒の学習状況を確認できます。進捗状況が見れることによって、生徒とのコミュニケーションも円滑になります。



映像授業やICTを導入する時のポイントと教室運営や経営に与える影響

像授業やICT教育サービスも様々なものが出でてきており、「どれを導入すると良いのか?」といった質問を受けることがあります。

何を導入するのが良いかはケースバイケースですので、この質問に対してもお答えすると、「どれを選択するか?」ではなく「何を導入するか?」という観点で選択してください。この章では、映像授業の選択で必要なポイントをお伝えします。

あなたの塾が生徒や保護者に与えている価値は?

映像教材などのICTサービスを導入する際に考えていただきたいのは、「自塾は生徒や保護者にどのような価値を与えているのか?」です。その価値の中、「不足分をICTで補うのか?」「強みのICTでより活かすか?」、そして「どの不足分を補うのか?」「強みをどこを強めるのか?」を考える必要があります。

その後はじめて、「そのためには何をICTを活用して実現するのか?」という順序立ててもらえばと思います。

Q 決めたい部分が決まつたら次はどうする?

映像教材などのICTサービスを導入する際に自信があるのか? どの部分に自信があるのか? ハッキリさせることになります。そのうち自塾はどのように自信があるのか? どの部分に対する自信があるのか? 「保護者に対する学習に関する相談」などになると思います。そのうち自塾はどうことになります。

Q 注力したい部分が決めたら次はどうする?

映像教材などのICTサービスを導入する際に考えていたいのは、「自塾は生徒や保護者にどのような価値を与えているのか?」です。それを高めることに注力していくのか? になります。注力する部分が決まつたら、次にAに注力するためにはBはICTを活用して解決しようになります。

Aに注力するからAにICTを活用するのか? といった検討になります。例えば、「面倒見には自信があるが、自宅だと『わからない』→『やらない』→『次の授業がわからない』という悪循環になってしまいます。そこで

スも様々なものが出でてきており、「どれを導入すると良いのか?」といった質問を受けることがあります。何を導入するのが良いかはケースバイケースです。この質問に対してもお答えすると、「どれを選択するか?」ではなく「何を導入するか?」という観点で選択してください。この章では、映像授業の選択で必要なポイントをお伝えします。

まずは、学習塾が生徒や保護者に与えている価値は、一般論としては、「子どもに学習内容を理解させる」「子どもたちの学習意欲を向上させる」「子どもに学習習慣をつける」「子どもに学習方法をアドバイスする」「子どもに学習環境を提供する」「子どもの所属意識」「公教育学習範囲外の教育」「進路情報の提供とアドバイス」「保護者に対する子どもの学力情報の提供」「保護者に対する学習に関する相談」などになると思います。そのうち自塾はどうことになります。

Q 授業に自信があるなら映像授業を導入する価値はないのか?

生徒が、「できる」「解ける」ようになるためには、その前提となる知識を覚えたり、手順を理解するだけでは無く、使いこなす必要があります。重要なのが演習。ですが、限られた授業時間内では難しいことがあります。

特に学習塾の場合、授業回数も少なく、知識や手順など画一的な説明に時間がかかり、時間内では少し演習をして、あとは宿題として自宅に持ち帰る、という形になってしまいがちです。

ですが、この演習こそ、『重要』。

Q せっかくの良い授業をもつと活用できないか?

授業に自信があつても受けたまでもないことには価値を生みません。でも、生徒にも都合があり、学校行事や部活動などで授業に出席できないこともあります。そこで、授業を撮影しておき、

それほど自信がない。だから、授業 자체を映像に任せてしまい。より面倒見の部分に力を入れていこう。」といった判断になります。

こういった検討をせずに「流行りだから」とか「ライバル塾が導入したから」といった理由で映像授業を導入してしまうと、折角のサービスを活かすことができないどころか、生徒に映像授業をセルフサービスで受けさせることになってしまい、「これだつたら自宅でオンライン授業を受けよう」ということになります。

Q より良い授業をするためのICT活用とは?

「基本的な知識に関する映像を自宅で見てもらう」方法以外にも、より良い授業を行うためのICT導入方法はたくさん考えられます。例えば、あらかじめ宿題をICTを利用して提出させておき、より間違いが多かつた問題の解説に時間を多くとる。提出された宿題の中から典型的な間違いを教室内で共有して説明する。復習を促進させるためにSNSなどを利用して教室内の生徒を結びつけ復習用の演習の不明点などの質問対応をする。などといった活用方法もあります。

映像授業を利用して、画一的な「知識」や「手順」、「理解」の部分は自宅で映像を見てもらい、「演習」は授業中に先生のサポートの元に実施するという工学スタイルを開発するという利用方法をとり授業の価値を高めるという工夫も考えられます。

欠席時の補講に利用してもらうといった活用方法も今のICT機器やサービスを利用するとそれほど難しいことではありません。撮影機材や編集ソフトも高性能に、今やそれほどコストをかけなくとも数年前のプロ用の機材並みの性能を持つています。また、使いやすくもなっていますのでちょっととしたノウハウを得れば簡単に動画も用意できます。

もちろん、用意した映像は欠席時の補講だけではなく、出席者の復習用などにも利用できます。生徒によつては先生に質問を何度もすることに抵抗があることも、授業の内容を映像にして授業がわからなかつた、十分に理解ができなかつた生徒向けに利用してもらうという活用方法も考えられます。「自宅で宿題をしながら、わからなくなつたら録画された授業を見直す」「テストでできなかつたところを復習する」など、複数回閲覧することで、知識の定着にもなります。

Q 用意した映像教材を用いて、ビジネス展開できなかついか？

授業ノウハウが詰まつた映像教材。自社で作成したなら何も自塾の生徒だけに見てもらうだけがその活用方法はありません。インターネットを利用して、今まで手が届かなかつたタ

ゲットへのアプローチが可能になります。例えば部活で時間が合わずに通塾できない生徒、そもそも通塾圏外の子ども、もつといふと海外在住の生徒へもアプローチもできるようになります。「映像授業とは購入するもの」「サービス提供をうけるもの」と思つていませんか？逆に御社独自の映像授業を制作し、販売するという展開も検討できるのがICTやインターネットの特性です。インターネットを通して販売するためのインフラも各種Webサイトなども利用できます。生徒によつては時間を使って映像授業を用意するなら、それを自校の生徒だけに提供するビデオなどが存在していて手軽にできる時代になつてきています。

授業を作つて他の教育機関に販売するようになつてきていますので「映像授業を作つて他の教育機関に販売する」このようなビジネス展開も検討できます。受講料を払つて映像授業を利用した新規ビジネスで事業拡大を実現できます。

Q ICTの特性は？

ICTを利用、特にICTを活用してビジネスを広げようというときに是非知つていただきたいのがICTの特性です。まず、ICTの特性として1つ目にあげられるのはIT業界で「①ムーアの法則」として知られる

低下、例えばCPUは、ほぼ1年半で性能が2倍になります。ハードウェアだけではなくソフトウェアについても単価は低下します。また、実体としての物質にかかるコストが小さい、特にソフトウェアは物質としてかかるコストがほぼ0円なことから、ユーザが増えれば増えるほど利益が加速的に増加する「②収益通増型のモデル」になります。一方、インターネットの特性により距離を限りなく近づけるとともに情報が均一化されるために、人気を集めるものひとつに、人気がその分野で一人勝ちするとともに、逆に世界中からの需要を集約できるため、今まではお店で取り扱うことが出来なかつたマニアック、ニッチな商品やサービスがビジネスとして成り立つ余地ができる「③ロングテール現象」が起きます。そして、コミュニケーションのハブとなる人や場所がなくなりユーザー同士が直接つながる「④ハイパー・エクタビリティ」という特徴もあります。

そしてネットワーク自体は利用者の数の乗数で下記が増える「⑤メトカーフの法則」も重要なポイントになります。具体的な例をあげた方が理解やすいかと思います。映像授業を例にすると、映像配信コストの低下とともにどんどん画質の良い映像をユーチューブに届けることができるようになつてきます（①ムーアの法則）。そして何人が受講してもそれほどコストがかかりません。

Q ICT自体はどうよう間に変化するのか？

ICT自体はどうのように変化していくのだろう？

今起こつてているICT関連の変化をあげると①センサー技術やVR技術など出入力系が人間に近くなり、②IoTにより様々な機器がインターネットに接続し、③人工知能なかでも、④機械学習、特に⑤ディープラーニングにより、データを抽象化しコンピュータ自身がアルゴリズムを生み出す世界へと変化してきています。

教室長・チューター向け

StudyNavi を導入した授業でできること



最適な指導

ひとりひとりの生徒たちの学習(学習の進捗・理解度など)を把握し最適な指導の実現をします。

お知らせの発信

生徒たちのフォロー、学習塾での姿勢、学習状況などを保護者に対して簡単に発信することができます。

アンケートの実施

アンケート結果の自動集計ができます。受講生の意見を知ることで、教材からの見直しや運営の改善も行うことができます。

こんな悩みを解決します!!

生徒に最適な指導をしたい

先生たちはいつでも適切な指導ができるていると思いがちですが、生徒たちが聞きた
いところとは見当違いの指導をしていることも珍しくありません。

StudyNavi サービスでは、受講生の苦手な科目・単元が把握でき、どの学習をさせるべきの判断が可能になります。生徒様の「今」の状況を知ることで、最適な指導の実現につながります。

受講生の本音が知りたい

生徒たちに満足いく授業や指導ができているのか？という悩みは塾を経営する方たちにとって永遠に居きることがあります。

StudyNavi サービスでは、生徒たちにアンケートができます。先生の指導方法や授業内容の満足度や不満」の声を知ることで、運営の改善や指導方法の見直しまで多岐にわたる悩みを解決する手助けになります。

複数の映像授業運営も簡単

複数教室を運営する塾チェーンでも、ご利用いただけるシステムを開発しております。StudyNaviは、複数教室での学習・利用状況の一元管理が可能です。また科目別の利用状況や1年生と3年生の利用比較などの分析もできます。安全面では、他教室間でのアクセスができません。全生徒・保護者に対してお知らせの一斉送信などもできますので、最少の負担で最高の映像授業運営が実現できます。

StudyNavi

映像授業の導入に最適なクラウドサービス学習塾での映像授業プラットフォームに最適！

StudyNaviは、全国1,300教室以上で利用されるマルチデバイス対応のICT学習プラットフォームです。個々の生徒に合わせて教材の割り当て、その進捗・学習状況の確認が簡単に行えます。クラウドサービスで手軽に導入できます。

生徒向け

さまざまな環境で 勉強させたい

授業時間だけで習得できることには限りがあります。成績向上の為に学習の質と量を確保することが重要なポイントとなります。

StudyNaviは、マルチデバイス対応の学習プラットフォーム。PCやタブレット、スマートフォンなどさまざまな環境で動作します。自宅や通学時、教室外での学習も含めて学習環境を提供することができます



こんな悩みを解決します !!

単元ごとの定着度を把握させたい

一度の学習で単元が完全に理解することはできません。

StudyPadサービスでは、単元ごとに理解度を測るチェックテストを設けることができます。テストは即時採点され、生徒様自身の理解度や弱点をすぐに把握できます。また、もう一度復習したいところのみを映像授業で補習することで単元の定着度を高めます。



保護者のフォローも万全に

保護者は子どもたちが塾でどのように勉強しているか気になるものです。

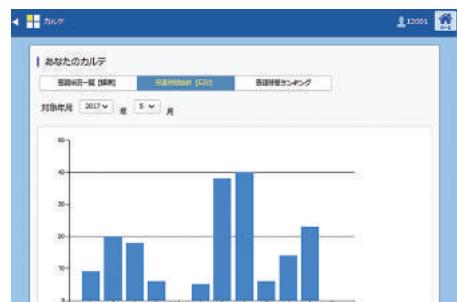
StudyNaviサービスでは、保護者の不安や悩みを解消します。先生から保護者へのお知らせ発信機能、保護者による子どもたちの学習履歴確認機能があります。

例えば、塾から子どもたちへのフォローや、今日はどんな勉強をしているのだろう？という場面にも対応できます。また面談日や休校日などの情報共有もできます。

自分の学習状況を確認させたい

学習した単元を確認することにより学習の進捗・理解度を可視化し、自身の学習に活すことができます。

StudyPadサービスでは、受講後に今までの学習履歴を確認できます。学習履歴を確認することで、次に何を学習したらよいか考えて学習をするチカラも身につき、学習計画を立てることができます。



StudyPad

自塾作成のオリジナル映像授業を手軽に
スタートできるICTクラウドサービス

StudyPadサービスとは、デジタル・ナレッジが提供するICT学習環境導入をサポートするサービスです。

ICT学習環境導入には、サービスや機材を選択して個々に導入する必要があります。そのため導入側に知識面でも作業面でも大きな負担がかかります。

StudyPadサービスなら、その負担は最小限。

タブレットなどの閲覧環境から、生徒ごとに個別の学習内容を提示したり、また管理者が自分の生徒たちの学習状況を把握したり、生徒へのフィードバックやアドバイスするための機能があります。また、自作した映像教材を利用するための映像配信ストレージや、すべての教材を用意できない方のためのオプション教材などICTを導入する際に必要なものをトータルで用意いたします。



教室毎に教育・学習内容・利用用途に合わせて、
最適にカスタマイズしたタブレットをレンタルします。

たとえば、「このアプリを使いたい」「この機能は利用させたくない」といった要望を、何百台と設定するのは大変です。私たちが初期設定をしてから塾に送付させていただきます。不安や業務負荷を最少限にしてタブレットを導入していただくことができます。また、「電源が入らない」「ソフトウェアがうまく動作しない」といったトラブル時に代替機を送付するサポートもあり、機器トラブル時の影響を最少限に抑えることができます。

当社では学習者の学力や志望校、目的やご利用シーン、集中力などに合わせた
さまざまな難易度・内容・長さの形式の映像教材をご用意しています。

「個々の生徒のレベルや理解度に合わせた教材を用意したい」「自宅で復習できるツールを提供したい」「授業前の事前学習教材として活用したい」それぞれのニーズに合わせた教材を自社すべて用意するのは困難です。

5分程度で見られるショートタイプの授業動画から、Flashアニメーションを利用したインタラクティブな授業動画、従来の黒板を使った授業動画、電子黒板を利用したテンポよく学べる授業動画まで用意いたしました。

導入事例

明光MUSE

【インタビュー】株式会社明光ネットワークジャパン 個別指導の明光義塾が“映像学習”導入で見据える、未来教育の行方
<https://www.digital-knowledge.co.jp/archives/1961/>



デジタル・ナレッジ

株式会社デジタル・ナレッジは、1995年設立以来、1500組織を超える企業・スクール・学校のeラーニングシステムを立ち上げている『日本で初めてのeラーニング専門ソリューションベンダー』です。

現在では、eラーニング専用プロダクト（製品）、eラーニングシステム カスタマイズ（構築）、eラーニングサーバー運用（ホスティング）、コンテンツ製作・販売（教材）、受講者募集支援（プロモーション）、運用アウトソース（運用）、教室・IT機器（教育IT）の7つのeラーニング関連事業をワンストップで実施し、教育機関と受講者を結ぶ「学びの架け橋」となるべく活動しています。

会社概要

会社名	株式会社デジタル・ナレッジ
代表	代表取締役社長 はが弘明 / 代表取締役COO 吉田自由児
所在地	<p>《本社》 〒110-0005 東京都台東区上野5-3-4 eラーニング・ラボ 秋葉原 Tel : 03-5846-2131 Fax : 03-5846-2132</p> <p>《西日本支社》 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-12-8 明治安田生命肥後橋ビル12階 Tel : 06-6444-4901 Fax : 06-6444-4902</p> <p>《九州支店》 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル6階 Tel : 092-686-8576</p>
電話	03-5846-2131
FAX	03-5846-2132
設立年月日	1995年12月20日

株式会社デジタル・ナレッジ
www.digital-knowledge.co.jp

東京都台東区上野 5-3-4 e ラーニング・ラボ秋葉原
TEL: 03-5846-2131 FAX: 03-5846-2132

発行日： 2017年5月1日

(C) 株式会社デジタル・ナレッジ 2017 本冊子記載の記事、写真、イラスト等の無断複写（コピー）・複製（転載）を禁じます